## 3・11 後を生きる

# 未来への鍵

星清彦

人は昔　皆器用な指を持っていた
その指は米や食物を作るだけではなく
沢山の道具などもまた作り出してきた
それを人々は「文明」と呼んだ
「文明」が進むことで人々は豊かに成
ることに気付いた
そしてそれは一度手に入れると
決して手放したくはないものであるこ
とも理解できた
人々の願いはいつも尽きず
豊かになれば更に豊かに成ることを願
った
「文明」は進化することだけを宿命と
されたのだ
しかし豊かに成れば成るほど
五本の指の出番は確実に減っていった
「文明」は掌から零れていった
手に負えなくなった進化は危うい豊か
さを産み出した
人にとって必要以上の豊かさも有るの
だ

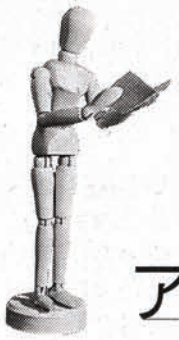
「文明」の隣に「文化」は存在する
お互いの存在はお互いにとって必要で
ある
「文化」に豊かさは求められない
橋や建物のように
眼に見える明らかな形のものでもない
し
夢のような金額を手にすることなどは
到底あり得ない
ややもすると忘れ去られてしまいそう
だ
けれども「文明」は新しい笑顔を作っ
てくれるが
「文化」は昔からの笑顔を守ることが
できる
幾重にも受け継がれてきた眼には見え
ない確かなもの
溢れんばかりの心と心の歴史が「文
化」であるならば
それが本当の豊かさではないだろうか
新しい笑顔と昔からの笑顔
「文明」が何歩も先を進むのではなく
「文明」と「文化」がお互い必要とす
る隣人であること
それがより多くの笑顔を生むのだ
必要以上の豊かさは必要ないのだ

「文明」の出発点を人の掌に取り戻し
五本の指と「文化」の持つ確かな心の
育成が
正しい未来への鍵となることだろう
それがたとえ百年かかろうとも

（「脱原発・自然エネルギー218人詩集」より）

ほし　きよひこ
1956年、山形県生まれ。千葉県白井市公立小学校勤務。日本詩人クラブ所属。千葉県詩人クラブ理事。

私は「文明」と「文化」というこの二つの、似て非なるものについて気になり続けている。「文明」と「文化」はお互いバランスを取り合い、人間と共存してきたに違いない。しかし昨今「文明」だけが走りだし、そのバランスはすっかり崩れてしまった。世の中が便利になるのは良いけれど、それだけを求めることへの危うさ。どんなに素晴らしいものでも人間の心の豊かさがなければ、真の「文明」はありえない。



アシタノコトバ